

1. ナノテクノロジーから生れた光触媒

光触媒は、1967年に日本の科学者藤嶋博士が発明したもので、今この時間も多くの研究機関が、より高性能な光触媒を生み出す研究を行なっております。光触媒技術は、日本の国産技術として海外からも注目されていることから、国家プロジェクトに指定されております。 ※ノーベル化学賞ノミネート技術。

2. オゾンを超える分解力！

光触媒は、特定の鉱物に光のエネルギーを与えると鉱物に非常に強い酸化分解力が発生する現象を応用した環境浄化技術です。光触媒の酸化分解力は、最大でオゾンを超えることが知られており、医療施設や国際空港ビルディングのウイルス感染対策としても利用されております。下表は、酸化分解力の強さを示した表です。数値が高くなる程、分解力が強くなります。

参考（物質の酸化電位量）

物質名	水	塩素	オゾン	光触媒
酸化電位	+1.23V	+1.36V	+2.07V	+3.00V

3. ウィルス、病原菌、カビ、花粉、悪臭の原因物質を半永久的に分解

光触媒は、人に有害な有機物を分解します。例えば、ウィルス、病原菌、カビ、花粉、悪臭の原因物質、シックハウス症候群を引き起こすホルムアルデヒド、PM2.5に含まれる窒素酸化物などの有機物を分解します。

